

# 特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

## 目的

### 【ろう・難聴児に対する早期支援の課題】

新生児スクリーニングでリファラーの診断を受けた段階で保護者を支援する体制が十分ではない。医療関係者からの情報は補聴（補聴器や人工内耳）に限られ、ろう・難聴児の子育てのポイントや発達、手話によるコミュニケーションの情報等がない。

### 【乳児から幼児までの連続した子育てに関する情報の提供】

人工内耳装用が可能な月齢に達するまでの間、乳児を無言語状態に置かずに手話のインプットで親子関係を築くことが可能であること等をまとめた冊子を作成し配布。更に、海外の論文等を翻訳して紹介し、専門家によるオンライン相談を実施する。



## 成果

- 保護者が前向きになる「ろう・難聴児がもっている力（強味）」という視点と、子育ての具体的なコミュニケーション方法を冊子にまとめ、関東・甲信越地域の自治体と医療機関に配布。提供する情報の幅が広がったとして追加送付依頼が多数あった。
- 研究が進んでいる米国の言語発達チェックリストを翻訳しHPで公開。保護者が子どもの成長を確認できる情報が提供されたとして専門家から好評を得ている。
- 今後は、人工内耳に伴い手話は不要と考える医療関係者に対し、手話はろう・難聴児と家族のセーフティーネットであることを粘り強く伝え、早期支援の情報の厚みを図る。

## 事業内容

### ①冊子『聞こえない・聞こえにくい 赤ちゃんの育て方』（以下、主な内容）

- 聞こえない・聞こえにくい赤ちゃんの力（ろう児を育てるとのこと／目で情報をあつめる／視線を合わせる／ろう児の視界／ことばのはじまり）
- 保護者支援（コミュニケーションのポイント／生活の中で伝える場面）
- 0～2歳児のための教材（手話リズム／見てわかる視覚教材）等

※この他、NPO法人から譲受した冊子の手話動画のクオリティを上げて増刷し配布。

### ②冊子の主な配布先

東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、群馬県、静岡県、山梨県、新潟県  
自治体（障害福祉課等）390件／医療機関（産婦人科、精密聴力検査機関、二次聴力検査機関）1369件／療育・教育機関 32件／合計1791件

### ③SB 210 Language Development Milestonesを翻訳し公式サイトで公開。

（内容）アメリカの上院 SB 210 委員会によって、誕生から5歳までのろう児や難聴児のために開発された「言語発達チェックリスト」で保護者が目安にできるもの。

### ④オンライン相談：特別支援教育士スーパーバイザー、言語聴覚士、臨床発達心理士、学校心理士によるオンライン相談を実施。

